日本天文学会，早川基金による
渡航報告書
— Pacific Rim Conference on Stellar Astrophysics in Hong Kong

香港科技大学で開かれたこの会議は，まさに‘香港’という都市のエネルギーを感じさせるものでした．香港で開かれるということで，世界中に散っている香港あるいは中国出身の天文学者が数多く集まって，最新の成果を発表していく——これはまさに香港ならではのことでしょう．またこの大学や，香港の天文台，科学博物館などは最近になって作られた新しいものであり，天文台などで働いている人たちも若い人が目立ちました．科学教育を進めていこう，という香港の雰囲気の中で開かれた研究会とも言えます．

この会議は「星」に関する研究全搬をカバーするような会議でした．一言で「星」といってもさまざま分野があります．特に中心となったのは白色わい星，中性子星に関する発表でした．もちろん，私が主として関心がある晩期型星についての発表もありました．さまざまな分野の人が集まり，さまざまな発表をして，全く違う分野の人が質問をしていく，そんな会議でした．

慣れない国際会議では思うようにいかない，といった経験もしました．Kwok 氏の発表は全く素晴しいものでした．ただ，Kwok 氏の発表のなかで1つ質問したいことがあったため，コーヒーブレイクの間に話しかけようとしました．ところが次々とKwok 氏のところに人がやってきて‘Nice presentation!’とか‘Well organized!’と褒めていくです．私は Kwok 氏になかなか話しかけられなくて，やっと私が質問できたのはコーヒーブレイクも終わりに近づいたころでした．また，私の発表については‘interesting’とか，‘unique’と言われました．ただ，私の発表は褒められ，いくつかの質問をされはするもの，なかなか熱烈な議論には発展しませんでした．

（写真提供；山村一誠氏）

同じことを発表するのだとしても，いかに短時間のうちにうまくポイントを説明できるかが重要なのだと痛感した次第です．

食事も皆一緒に食べる，というわけで，食事中も議論を続けられるし，あるいは有意義な雑談を楽しむことができました．雑談のなかで多かったのは京都に関する質問です．この会議が終わるとすぐに，京都で IAU が開かれるため，直接香港から京都へと向かう人が多かったのです．そういった人達に，「京都のみどころは？」とか，「日本でのマナーはどんなものがあるのか？」（お辞儀のことはかなり有名らしいですが）と聞かれたりしました．なかには簡単な日本語を教えて欲しいといってきた熱心な人もいました．IAU をきっかけに日本への関心が高まるのは非常にうれしいことです．

今回の会議ではサイエンスでも雑談でも話題が尽きることはなく，印象深い1週間でした．最後になりましたが，こういったすばらしい1週間を与えてくださった日本天文学会，早川基金の皆様に感謝致します．

松浦美香子
（宇宙科学研究所赤外線天体物理部門）